

## 臨床心理学

担当教員 永田 俊明

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

この授業は、現代の心理学の全体的な動向をコンセプトにした「心理学・臨床講義」というスタンスに立って、必要な基礎的な知識の習得を目指す。とかく従来の臨床心理学は単なる学派の羅列的理解が中心であることが多いが、この授業では、正常との連続変数及び心理学的援助対象のケアシステムの一部として、現代の代表的な心理病理現象をどのように診立て、また、援助を行う必要があるかについての基本知識の習得と心理的援助の勘所に焦点を当てながら理解を深めていく。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	臨床心理学とは何か（1）史的概説を基礎に
2	臨床心理学とは何か（2）精神医学との相違
3	面接と検査 アセスメント
4	観察と行動 データ収集技法
5	正常と異常 DSMを中心に
6	異常心理学 精神的な症状と心理学
7	精神障害 心理的問題
8	発達臨床心理学 ライフサイクルと心理的問題
9	介入理論モデル（1）精神分析とクライエント中心療法
10	介入理論モデル（2）認知行動療法と家族療法
11	介入技法モデル(1) 遊戯・箱庭療法
12	介入技法モデル(2) SSTと心理教育
13	介入技法モデル(3) さまざまな相談活動
14	コミュニティ・モデル
15	医療・福祉領域の臨床心理学

## 【履修上の注意事項】

シラバス内容について事前に学習し、事後はテキストおよびノートにより知識を深めておく。

## 【評価方法】

期末試験：100%で評価 \*本科目の再試験は実施しない。

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献】

『精神医学事典』加藤・保崎他編 弘文堂2001年 『心理アセスメントハンドブック』上里監 2001年 「DSM-IV精神疾患の診断・統計マニュアル』加藤他監編 医学書院 1996年

## 看護学概論

担当教員 柴田 恵子、上妻 尚子、新 裕紀子、古江 佳織、古堅 裕章、

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

看護専門職としての自己の健康観、看護観を迫及するために必要となる知識、概念を理解する。看護の対象および看護の提供、歴史・制度および将来の専門職の展望に関する知識から看護学について理解する。

### 【授業の展開計画】

第1回目のオリエンテーション時に、詳細な授業計画および本教科の履修について説明を行う。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、看護学概論とは（柴田）
2	人間の欲求と健康、健康のとらえ方（上妻）
3	国民の健康状態（上妻）
4	看護の対象の理解（上妻）
5	災害時における看護（上妻）
6	国際化と看護、グループワーク：国際化と医療職者（古江）
7	サービスとしての看護・看護サービス提供の場（古堅）
8	医療安全と医療の質保証（古江）
9	小テスト1、ナイチンゲールについて（柴田）
10	看護職者の養成制度と就業状況（古堅）
11	看護職者の教育とキャリア開発（柴田）
12	看護における倫理（柴田）
13	看護職者の教育とキャリア開発、看護職の養成制度の課題（柴田）
14	小テスト2、看護とはなにか（柴田）
15	グループワーク：医療職者における専門性、学習のまとめ（柴田）

### 【履修上の注意事項】

課題について考え、レポートを提出する。第1回目のオリエンテーション時に授業前・後の学習について説明をするので、具体的な学習方法を考え実践すること。課題レポートは授業前の事前学習であり、講義期間中の小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。

### 【評価方法】

定期試験（筆記）：60%、学習態度・状況（小テスト、レポート提出、グループ活動の参加と発表）：40%

### 【テキスト】

『系統看護学講座 基礎看護学（1）』茂野香おる 他（医学書院）

### 【参考文献】

随時、紹介する。

## 社会福祉原論 I

担当教員 金 蘭九

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

- 1 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- 2 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。
- 3 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。
- 4 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解する。
- 5 福祉政策の課題について理解する。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、現代社会と福祉
2	福祉制度の概念と理念
3	福祉政策の概念と理念
4	福祉制度と福祉政策の関係
5	前近代社会と福祉1（救貧法、慈善事業）
6	前近代社会と福祉2（博愛事業、相互扶助、その他）
7	近代社会と福祉1（第二次世界大戦後の窮乏社会と福祉）
8	近代社会と福祉2（経済成長と福祉、その他）
9	現代社会と福祉1（新自由主義、ポスト産業主義、グローバル化）
10	現代社会と福祉2（リスク社会、福祉多元主義、その他）
11	需要とニーズの概念（需要の定義、ニーズの定義、その他）
12	資源の概念（資源の定義、その他）
13	福祉政策と社会問題1（貧困、失業、要援護〈児童、老齡、障害、母子・寡婦など〉、偏見と差別）
14	福祉政策と社会問題2（社会的排除、ヴァルネラビリティ、リスク、その他）
15	福祉政策の現代的課題

## 【履修上の注意事項】

授業前にテキストを読み、キーワードについて調べてくること。  
授業後に復習しておくこと。

## 【評価方法】

定期試験60%、レポート20%、発表20%で評価する。

## 【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『現代社会と福祉』第4版（中央法規、2017年）。

## 【参考文献】

厚生労働省編『（平成28年版）厚生労働白書』（ぎょうせい、2016年）。  
内閣府編『（平成28年版）障害者白書』（日経印刷、2016年）。『社会福祉六法』（最新版）。

## 地域保健論

担当教員 新任教員

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

健康の問題は、健康づくり、疾病の予防、リハビリテーションの各レベルにおける個人や社会の対応の問題として捉えられるが、近年その解決に当たっては地域社会を基盤として取り組むことが高まってきている。そこで、本講義では、①地域社会の変容およびそれに付随して発生している地域の多様な健康問題について理解を深める。②地域社会における健康対策の考え方や地域保健活動の重要性について理解し、地域保健を推進するための能力を養う。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション。地域保健について
2	地域社会と健康問題 都市化社会と健康
3	地域社会と健康問題 生活意識と健康
4	健康問題の変容とその対策の変化
5	地域保健に関わる圏域の設定と課題
6	地域保健活動に関わる主体と特徴
7	保健・医療・福祉と市町村の役割
8	保健・医療・福祉に関する計画
9	保健・医療・福祉の連携と統合 供給体制の統合化
10	保健・医療・福祉の連携と統合 具体的展開
11	世界と日本における健康づくり活動の動向
12	健康都市づくり（ヘルシー・シティ）の考え方
13	健康都市とその活動事例
14	健康日本21と健康増進法
15	まとめと確認

### 【履修上の注意事項】

日々報道される健康問題のニュースに関心をはらうことが望ましい。また、受講の前にはシラバスに沿って該当する内容に関連する項目等について学習することが望まれる。

### 【評価方法】

- ①レポートの提出、期末試験の総合点で判定する。したがって、受講する学生は、シラバスに沿って、事前学習および事後学習を行い、課題についてもきちんと提出するように心がけること。
- ②評価の方法は、レポート10%、試験90%の割合で行う。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献】

必要に応じて資料を配布する。参考書については、適宜講義の中で指示する。

## 生活支援論

担当教員 志賀 潔、山本 恵子、西島 衛治、濱田 輝一、田口 太郎、野崎 和義、福本 久美子、未定、後藤 秀昭、河谷 はるみ、中川 武子

配当年次 再履修者（2～4年）

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

1. 本学の教育理念である「生活者の支援」について、その内容や基盤となる思想を理解できる。
2. ICFの概念を基に、質の高い生活を構築する要素について考えることができる。
3. 個々のQOLを高めるために、当事者と専門職（多職種）が協働する必要性を理解できる。
4. 生活支援にかかわる専門職（多職種）に求められる協働の態度を身につけることができる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	建学理念と、生活の見方・考え方（志賀・濱田）
2	生活支援ーその根底にある理念ー（野崎）
3	それぞれの専門領域が目指す生活支援 看護（山本）
4	それぞれの専門領域が目指す生活支援 社会福祉（西島）
5	それぞれの専門領域が目指す生活支援 リハビリ（濱田）
6	それぞれの専門領域が目指す生活支援 鍼灸（田口）
7	それぞれの専門領域が目指す生活支援 口腔保健（未定）
8	地域包括ケアという考え方（その背景と施策の動向）（後藤）
9	VTRから学ぶ当事者の思い①（中川）
10	VTRから学ぶ当事者の思い②（中川）
11	VTRから学ぶ当事者の思い③（中川）
12	VTRから学ぶ当事者の思い④（中川）
13	貧困と健康格差、その解決策としてのソーシャルキャピタル（福本）
14	災害支援活動の実際（中川）
15	生活支援と社会保障（河谷）

## 【履修上の注意事項】

- 1) 本学の教育理念を深める科目で、多様な立場、異なる専門を有する職員がチームを組んで教授する。
- 2) 集中講義で実施する。
- 3) 法学Ⅱ（日本国憲法）と結び付けながら理解を深めること。
- 4) 講義前に各テーマについて情報を収集し、講義終了後は授業のねらいと関連させて復習すること。

## 【評価方法】

レポート100%

## 【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

## 【参考文献】

授業毎に紹介する。

## 行動療法論

担当教員 李 玄玉

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

行動療法は、治療の期間も短く、治療の効果もはっきりしている。治療の組み立て方、方針の立て方、その基本となる行動の見方を基礎からしっかりと捉えれば、無限の可能性が開かれる。本講義では、行動療法の基礎理論や技法を理解するとともに、行動療法の目指している地点を探求することを目標とする。

### 【授業の展開計画】

#### 【 授業内容 】

1. オリエンテーション
2. 行動療法について
3. 行動療法の特徴
4. 行動療法の動向および認知行動療法について
5. 行動療法の知識の概要
6. 行動療法と他の心理療法との相違点
7. 行動療法に必要な条件づけに関する基礎知識
8. 行動療法の諸技法
9. 行動形成法の理論と具体的事例
10. トークンエコノミック法と行動の改善
11. 臨床の場面での行動療法
12. 発達障害児の行動改善における行動療法
13. 行動療法の具体的な事例のビデオ鑑賞
14. 具体的な事例と行動療法の適用
15. 具体的な事例と行動療法の適用

### 【履修上の注意事項】

授業後の復習。理解できなかった部分について調べること。

### 【評価方法】

授業態度及び発表 40点、 レポート 10点、 テスト 50点、 合計 100点

### 【テキスト】

プリント資料を配布する。

### 【参考文献】

行動療法の理論と技術」 内山喜久雄、日本文化科学社

## 解剖生理学 I

担当教員 二科 安三

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

人体各部の構造と機能を勉強する。本講義で中心となる臓器は消化器系、血液および循環器系、呼吸器系、泌尿器系であり、その周辺（たとえば神経系等）にも注意を払いつつ勉強する。適切な教科書を指定するので、その7割程度は理解して他人に解説できるようになること。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容		
1	栄養の消化と吸収	消化器官の構造	二科
2		消化器官の構造	二科
3		消化器官の機能	二科
4		消化器官の機能	二科
5	呼吸器と血液の働き	呼吸器の構造	二科
6		呼吸器の機能	二科
7		血液の成分	二科
8		血液の機能	二科
9		血液の機能	二科
10	血液の循環と調節	心臓の構造	二科
11		心臓の機能	二科
12		循環調節の機構	二科
13	体液の調節と尿の生成	腎臓の構造	二科
14		腎臓の機能	二科
15		体液調節の機構	二科

## 【履修上の注意事項】

教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。

## 【評価方法】

期末試験(100%)で判定する。

## 【テキスト】

解剖生理学（人体の構造と機能[1]）、坂井建雄、岡田隆夫 医学書院

## 【参考文献】

なし。

## 解剖生理学Ⅱ

担当教員 二科 安三

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

人体各部の構造と機能を勉強する。本講義で中心となる臓器は自律神経系、内分泌系、骨と筋肉、生殖器官系、生体防御免疫系が中心となる。適切な教科書を指定するので、その7割程度は理解して他人に解説できるようになること。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	内臓機能の調節	自律神経の構造 二科
2		自律神経の機能 二科
3		自律神経の機能 二科
4		内分泌系の構造 二科
5		内分泌系の機能 二科
6		内分泌系の機能 二科
7	身体の支持と運動	骨と筋の構造 二科
8		骨と筋の機能 二科
9	情報の受容と処理	中枢神経の構造と機能 二科
10		中枢神経の構造と機能 二科
11		末梢神経の構造と機能 二科
12		特殊感覚の構造と機能 二科
13	外部環境への対応と防御	二科
14	生殖、発生および老化の仕組み	二科
15	生殖、発生および老化の仕組み	二科

## 【履修上の注意事項】

教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。

## 【評価方法】

期末試験(100%)で判定する。

## 【テキスト】

解剖生理学Ⅰと同じ教科書を使用する。

解剖生理学 人体の構造と機能1、坂井建雄、岡田隆夫、医学書院

## 【参考文献】

なし。



## 生活栄養学

担当教員 本田 榮子

配当年次 1年

単位区分 必修

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

○食物と健康という観点から基礎栄養学、食物の消化・吸収、栄養素の特徴や役割、臨床栄養学の面から疾病と栄養の関連について理解し、自らが幅広い視野と知識を身につけ実践する事、特に食事や栄養に関する情報量が急増している中、自身や人々の健康の維持増進に努めてもらう事が出来るようになってもらいたい。なお、医療専門職として、様々な身体的状況にある人々に接する際に、自身が学んだ食事指導を効果的に行う技法や体験を活かし、サポートすることで自らも健康的な食生活が実践出来るようになる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 栄養の基本概念(栄養とは 健康と栄養評価 食と環境)
2	食生活の課題(食習慣と栄養・スポーツと栄養 栄養状態の評価と方法)
3	日本人の食事摂取基準(栄養素別基準・食品群別摂取量・摂取エネルギーの算定・活動代謝)
4	栄養指導・保健指導(栄養指導の過程と栄養スクリーニング、特定健診・特定保健指導とは)
5	栄養素の機能と代謝(1)炭水化物の種類、エネルギー
6	栄養素の機能と代謝(2)脂質・たんぱく質の種類、代謝、栄養
7	栄養素の機能と代謝(3)ビタミン・無機質の機能と代謝
8	食物の摂取と消化・吸収(食欲・消化の調節・栄養素の吸収)
9	ライフステージと栄養(妊娠・授乳期期・乳幼児期・)
10	ライフステージと栄養(学童期・思春期・)
11	ライフステージと栄養(成人期・老年期)
12	病態時の栄養(1)栄養障害・疾患別食事指導の実際
13	病態時の栄養(2)疾患別食事指導の実際
14	病態時の栄養(3)疾患別食事指導の実際
15	病態時の栄養(4)疾患別食事指導の実際(経管栄養と中心静脈栄養・NST)

## 【履修上の注意事項】

履修の中で、各単元の理解を把握するために演習課題を出すので、テキストと配布資料、テキストの副読本としての「栄養学整理ノート」をもとに、きちんと予習復習をし受講すること

## 【評価方法】

筆記試験85% 課題レポート10% 学習態度5%

## 【テキスト】

「わかりやすい栄養学 第4版 -臨床・地域で役立つ食生活指導の実際-」ヌーヴェルヒロカワ

## 【参考文献】

わかりやすい栄養学(三共出版) 基礎栄養学(第一出版) 日本人の食事摂取基準(2015年版) 七訂補日本食品成分表、国民衛生の動向29年版 糖尿病の食品交換表 腎臓病の食品交換表、応用栄養学(医歯薬出版)

## 感染症学

担当教員 樋口 マキエ、齋田 和孝、三森 龍之

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

① ヒトは通常、どのような微生物と共生しているのか？常在正常細菌叢とその働きについて、② 病気の原因となる微生物（病原微生物）の分類と特性（構造、性質、病原性）について、③ 感染の成立と生体防御機構、代表的感染症の起原菌と臨床症状、特殊な患者における感染症について、④ 看護における感染予防とその方法について学ぶ。⑤ 抗病原微生物薬（殺菌薬、抗菌薬、抗真菌薬、抗原虫薬、抗ウイルス薬等）の微生物に対する作用と人体への作用（副作用）を学び、感染症に対する化学療法を理解する。

### 【授業の展開計画】

#### 【 授業内容 】

#### 【 授業担当者 】 【 授業日程 】

(H29) 10:50-12:20

- |   |      |          |
|---|------|----------|
| 1) 感染症学概論、自然免疫と常在正常細菌叢の働                      | (三森) | 4/07 (金) |
| 2) 病原微生物の分類と特性（構造、性質、病原性、感染機構）                | (三森) | 4/14 (金) |
| 3) 細菌と感染(特徴)                                  | (三森) | 4/21 (金) |
| 4) 真菌と感染、原虫と感染                                | (三森) | 5/12 (金) |
| 5) 病原微生物の分類と特性：ウイルスと感染、寄生虫                    | (三森) | 5/19 (金) |
| 6) 感染症の診断における臨床検査（小テスト）                       | (三森) | 5/26 (金) |
| 7) 感染に対する生体防御機構、ワクチン接種                        | (齋田) | 6/2 (金)  |
| 8) 感染経路と感染症の症状（臨床像）、医療関連感染とその制御               | (齋田) | 6/9 (金)  |
| 9) 特殊な患者における感染症（新生児、妊婦、高齢者、がん患者）<br>新興・再興感染症、 | (齋田) | 6/16 (金) |
| 10) 医療現場における感染防止対策（感染管理認定看護師：熊大附病 特別講師）       |      | 6/23 (金) |
| 11) 殺菌薬、化学療法について                              | (樋口) | 6/30 (金) |
| 12) 抗病原微生物薬の作用機序と使用の基本                        | (樋口) | 7/07 (金) |
| 13) 抗菌薬（抗生物質）                                 | (樋口) | 7/14 (金) |
| 14) 抗菌薬（合成抗菌薬）、抗結核薬、抗真菌薬                      | (樋口) | 7/21 (金) |
| 15) 抗原虫薬、抗ウイルス薬、殺菌薬                           | (樋口) | 7/28 (金) |
| 16) 単位修得試験（10:50～12:20：90min）                 | (樋口) | 8/04 (金) |

### 【履修上の注意事項】

- 1) 授業時には、指定の教科書とノートを持ってくる。講義内容の要点を書留め、その日の内に整理復習する。
- 2) 講義プリントはファイルし、専門用語は正確に覚え、その概念を正しく理解する。
- 3) 教科書①「わかる身につく病原体・感染・免疫」(4/08～8/05)を精読し自己学習する。  
②「コメディカルのための薬理学 第2版」-第12章 感染症に対する薬物と消毒薬-(7/08～8/05)
- 4) 教科書・参考書・プリント等を読んでも理解できないときは、教員に質問する。

### 【評価方法】

- 1) 学期末の筆記試験（100%）は、授業時間に比例した配点で評価する。  
講義1～6(40点)、7～9(20点)、10～15(40点)
- 2) 授授業への出席は最低要件であり、十分要件ではない。

### 【テキスト】

- 1) わかる身につく病原体・感染・免疫(藤本 編、目野・小島 著、南山堂 2,800円)、3) 教員作成プリント
- 2) コメディカルのための薬理学 第2版(渡辺、樋口/編、朝倉書店 3,900円)-薬理学、病態生理学Iでも使用-

### 【参考文献】

- 1) 微生物学(南嶋・吉田・永淵 著、医学書院 2,200円)
- 2) 看護の基礎固め： 6. 微生物学編、4. 薬理学編(メデイカルレビュー社 各1,600円)

## 薬理学

担当教員 樋口 マキエ

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

薬物とは、生体の恒常性（ホメオスタシス）の破綻による生体機能の異常（病態）を正常範囲に戻そうとする目的で使用される化学物質である。疾病の予防、診断および治療に用いられる。日進月歩の薬物療法が、医療・看護の現場で適正に行われているか判断できるよう、各種の薬物を系統的に把握し理解する。基本的な薬理学の知識と論理的思考を学習し、副作用の発現防止に寄与する。

## 【授業の展開計画】

## 【授業内容】

原因療法薬（化学療法薬：抗病原微生物薬と抗がん薬）については、感染症学と病態生理学Ⅰで教授した。ここでは、対症療法薬について教授する。正常な人体の構造と機能および病態を復習しながら、人体に対する薬物の有益な作用と副作用およびその機序を、系統的に教授する。さらに、薬物の生体内運命を理解させ、対症療法薬の臨床応用および適用方法を把握させる。

## 【授業日程】

## 薬理学総論

平成28-29年16:30-18:00（火）

1. 薬とは、治験、薬と法令  
生体の情報伝達系（生体の信号と応答、情報伝達物質、受容体）、作用薬と拮抗薬 9/20（火）
2. 生体に対する薬物の働きかけ：薬理作用、用量-反応関係 9/27（火）
3. 薬物に対する生体の働きかけ：生体内の薬の動きと反応に影響を与える因子 10/04（火）
4. エイジングと薬 10/18（火）

## 生体の機能異常（病態）と薬

5. 末梢神経系作用薬：自律神経作用薬（アドレナリン作働薬・遮断薬） 10/25（火）
6. 末梢神経系作用薬：自律神経作用薬（コリン作働薬・遮断薬） 11/01（火）
7. 末梢神経系作用薬：運動神経作用薬（筋弛緩薬）、感覚神経作用薬（局所麻酔薬） 11/08（火）
8. 代謝・内分泌系作用薬：糖尿病治療薬、消化系作用薬：潰瘍治療薬 11/15（火）
9. 免疫系作用薬：抗アレルギー薬、解熱鎮痛薬（NSAIDs）、ステロイド性抗炎症薬 11/22（火）
10. 循環系作用薬：抗高血圧薬、利尿薬 11/29（火）
11. 循環系作用薬：虚血性心疾患治療薬、抗血栓薬、抗不整脈薬 12/06（火）
12. 循環系作用薬：心不全治療 12/13（火）
13. 中枢神経系作用薬：全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬 12/20（火）
14. 中枢神経系作用薬：睡眠薬、抗不安薬、抗うつ薬、 1/10（火）
15. 中枢神経系作用薬：抗精神病薬、抗パーキンソン病薬、抗てんかん薬 1/17（火）

16. 単位修得試験 1/30（月）

## 【履修上の注意事項】

- 1) ノートを各自用意し講義内容の要点を記す。その日の内に教科書を読み込み内容を整理・復習する。
- 2) 講義プリントはファイルし、薬理学授業時に、教科書、ノートと一緒に必ず持ってくる。
- 3) 専門用語は正確に覚え、その概念を正しく理解する。理解できないときは、質問する。
- 4) 授業参加は最低要件であり十分要件ではない。

## 【評価方法】

- 1) 学期末の本試験（100%：筆記試験）で評価する。前提条件は2/3以上の出席。
- 2) 「薬物療法の基礎知識を用い、論理的思考を展開できる」を評価基準とする。

## 【テキスト】

- 1) コメディカルのための薬理学 第2版（渡邊、樋口/編、朝倉書店 3,900円）
- 2) 教員作成プリント

## 【参考文献】

- 1) 看護の基礎固め ひとり勝ち 薬理学（自律神経系） 片野/編 メディカルレビュー社 1,600円
- 2) 薬理学 第13版 吉岡、泉、伊関著、医学書院 2,300円
- 3) 『今日の治療薬2016』 浦部、島田、川合編、南江堂

## 国際協力論

担当教員 安藤 学、川原 英照、川原 光祐、久家 誠司

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

今日、貧困・教育・紛争・環境破壊・エイズ・食糧問題など地球規模の諸問題はますます深刻な状況にあります。このような問題は、私たち日本人にとっても遠い国の問題ではありません。私たちも国際社会の一員として世界の国々と協調連帯して国際協力を推進するための能力を修得することができる。

### 【授業の展開計画】

保健・医療・福祉分野の国際協力を事例に取り入れながら授業を展開する。

週	授 業 の 内 容
1	国際協力とは何か（安藤）
2	政府開発援助（安藤）
3	政府開発援助の事例（安藤）
4	NGOによる民間協力（安藤）
5	NGOによる民間協力の事例（安藤）
6	技術協力の方法（川原光祐）
7	技術協力の方法の事例（久家）
8	参加型開発（久家）
9	参加型開発の事例（久家）
10	国際協力の理念（久家）
11	国際協力の理念の事例（久家）
12	国際協力の事例（民間）（久家）
13	国際協力の事例（政府）（川原英照）
14	国際理解と支援活動（安藤・前田）
15	今後の国際協力のあり方（安藤）

### 【履修上の注意事項】

オムニバスであるので、毎回の出席を心がける。事前に出され課題について調べて授業に臨むことと、授業後に授業前に出された課題と授業で学んだ内容について比較して復習をすること。

### 【評価方法】

レポート80% 授業への取り組み20%

### 【テキスト】

資料を準備する

### 【参考文献】

適宜紹介する

## 危機管理と災害支援

担当教員 安藤 学

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

## 【授業のねらい】

日常生活の中においても、危険は常に存在する。もちろん日常生活だけではなく拡大して考えれば地球上にはいろいろな危険が存在しており、それに対する危機管理が必要である。家庭内の危険から出発し国際紛争までにいたる危機管理について学ぶ。

そして、災害についての危機管理と災害発生後の支援のあり方について検討できる能力を修得することができる。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	危機管理論オリエンテーション
2	危機管理とは何か
3	危険とは何か
4	家庭における危険と危機管理
5	地域社会における危険と危機管理
6	学校における危険と危機管理
7	企業における危険と危機管理
8	国家における危険と危機管理
9	国家間のバランスと危機管理（安全保障）
10	現場からの危機管理（外部講師講話）
11	現場からの危機管理（外部講師講話）
12	災害支援の方法 1（災害発生時）
13	災害支援の方法 2（自活生存）
14	災害支援の方法 3（避難救助）
15	危機管理についての総まとめ

## 【履修上の注意事項】

授業前に出された課題を完成させて授業に臨み、授業後は授業前の課題と授業で学んだことを比較して復習をすること。

## 【評価方法】

レポート提出（80%）、授業への取り組み姿勢（20%）

## 【テキスト】

なし

## 【参考文献】

適宜紹介する

## 災害支援演習

担当教員 安藤 学

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 2

### 【授業のねらい】

災害支援の場合、常に支援協力活動にあたる要員の為に、快適な宿泊設備、生活物資が用意されているとは限らない。むしろ多くの場合が、災害被災地であったり、生活物資の不足する場所での支援協力活動である。支援協力活動において任務を遂行するために、まず自分自身の安全の確保と生命の維持が確保されなければならないし、またチームワークも重要である。この演習では、協力協同の精神を涵養し災害場面を想定して自活生存、生命維持のための基本的な方法と共に、支援活動に必要な基本技術を修得できる。

### 【授業の展開計画】

この演習では、「海上訓練」と「陸上訓練」に分けて集中的に実施する。

「海上訓練」では短艇(カッター)を用いて協同協力の精神を養い、「陸上訓練」では実際にテントを設営し野営して自活生存方法を修得する。また「海上訓練」「陸上訓練」を通じてチームワークの重要性を学ぶ。実施の時期については、前もってオリエンテーションを開き説明指導する。ただしこの演習で、他の授業に支障(公欠で授業を欠席)がでないように、夏季休暇中の実施する。

「海上訓練」(9月上旬 4日間 長洲海洋センター/前面海域)

短艇(カッター)・帆走(ヨット)・結索(ロープワーク)・安全管理・気象観測・溺者救助・応急処置・信号通信・統率(指揮)法

「陸上訓練」(9月中旬 2泊3日 大学構内/蛇が谷公園)

オリエンタリング(地図見・コンパス見方)・ロープ技術(ロープ渡り・降下等)・野営方法(テント設営・炊飯等)・安全管理・救急処置(傷病者搬送方法含む)・統率(指揮)法

※ 「海上訓練」・「陸上訓練」とも、学内において事前指導を行った後に実施する。

### 【履修上の注意事項】

演習に際しては、安全確保のために指定の作業着・帽子・作業靴を着用する。(作業着等については、貸与するが、食事代と作業服のクリーニング代は各自負担) 演習前に出された課題を完成させて授業に臨み、演習後は演習で学んだことを復習をすること。事前に配布された資料を学習しておき、演習終了後は各自で復習を定期的におこなうこと。

### 【評価方法】

技能(80%)、演習態度(20%)

### 【テキスト】

プリントを配布する

### 【参考文献】

なし